

令和3年度

府中市教育委員会点検・評価報告書

【令和2年度事業対象・ダイジェスト版】



アニメーター 安藤雅司氏による

原画 《タイトル》

9年間の学習成長
～1年ごとの満喫～

令和4年3月

府中市教育委員会

I 府中市教育委員会における点検・評価の取組について

- 1 事務事業評価は、事業を実施している所管課が事務事業の現状を把握し、認識した上で、目的を達成するために解決すべき課題を発見し、具体的な改善につなげていく取組みです。

事務事業評価制度を導入することにより、事業所管課が事業の成果を組織的、定期的及び客観的に見直し、データに基づく改革・改善を行いやすくなるという効果が期待できます。

- 2 点検・評価の対象となる事業

第5次府中市長期総合計画の事業で、教育委員会の主要な事業を対象として行った事業について点検・評価の対象とします。

- 3 対象となる期間

令和2年度とします。

- 4 点検・評価の実施方法

- (1)教育委員会における点検・評価

事業の担当課が自己評価する1次評価と教育委員会全体として総合的に評価する2次評価の2段階で実施します。

- (2)学識経験を有する者の知見の活用

評価の客観性を確保するため、外部の有識者による評価を行います。

学識経験を有する者として、前府中市教育委員会教育長 平谷昭彦氏に御意見をいただきます。

- 5 評価方法

事業の執行結果について、活動指標、成果指標、事業コストを用いて「目的妥当性」、「有効性」、「効率性」及び「公平性」の観点から評価を行います。

II 教育委員会の活動状況

i 教育委員について

本市教育委員会は、人格が高潔で教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、市長が市議会の同意を得て任命した5人の教育委員により構成されています。平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により教育委員会制度の抜本的な改革が行われ、平成27年10月1日に教育委員長と教育長を一本化した新教育長を設置し、活動しています。

令和3年3月31日現在

職名	氏名	任期	
教育長	平谷昭彦	平成30年10月3日～ 令和3年10月2日	3期目
教育長職務代理	高橋良昌	令和2年12月19日～ 令和6年12月18日	2期目
委員	和知啓子	平成29年10月1日～ 令和3年9月30日	1期目
委員	松尾紀美	平成30年12月19日～ 令和4年12月18日	1期目
委員	藤井美砂緒	令和元年7月3日～ 令和5年7月2日	1期目

ii 教育委員会の開催状況について

定例会、臨時会など、令和2年度は17回の教育委員会会議を開催し、42議案について審議しました。

Ⅲ 事務事業の点検・評価の結果

[結果一覧表]

i 教育政策課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
放課後児童クラブ・放課後子供教室それぞれの充実と連携	現状維持	現状維持	
天領あやめ塾(高校生に対する学習支援)	現状維持	現状維持	
地産地消の取組	現状維持	現状維持	
天領あやめ塾(地域魅力づくりコース)	事業改善	事業改善	
公民館の利活用推進	目的拡大	目的拡大	
歴史的価値を持つ建物の観光活用に向けた整備	目的拡大	目的拡大	
歴史的財産保存活用事業【備後国府跡】	目的拡大	目的拡大	
電子図書館グレードアップ	目的拡大	目的拡大	

ii 学校教育課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
府中市版「教育課程の特例カリキュラム」の作成・実施	事業改善	事業改善	
学校内軽食ブース設置等学びの環境整備	事業改善	事業改善	
特別支援教育・教育支援員の充実	事業改善	事業改善	
コミュニティ・スクールの推進	事業改善	事業改善	
小中一貫教育	事業改善	事業改善	
GIGA スクールネットワーク推進	目的拡大	目的拡大	
プログラミング教育の推進	現状維持	現状維持	

iii 外部有識者による評価

令和2年度、前年度から拡大した新型コロナウイルス感染症により、これまでに経験したことのない社会状況、学校生活になり、その中で教育委員会の様々な事業にも多大な影響が及びました。特に、学校における指導方法や保護者との連携、各校で更なる創造に向けて進んでいたコミュニティ・スクール、あるいは公民館や図書館など、人と人との直接のかかわりが持ちにくくなり、対応の変化が必要になりました

各現場では、そういったピンチの状況を乗り越えるために試行錯誤を重ねる中で、学校教育、生涯学習における工夫した形も見出し、新たなやり方での取り組みも進んできました。中でもICT機器を活用した対応は、取組方法を広げ、教育内容を豊かにすることからも、今後の更なる発展を期待するものです。

1 学校教育の充実

小中一貫教育やコミュニティ・スクールの仕組み作りから、現在、中身の充実に向けて取組みを進めてきている中で、「教育課程の特例カリキュラム」、「GIGAスクールネットワーク推進」が取り組まれました。

特にGIGAスクールについては、国の積極的な推進や新型コロナウイルス感染症の影響もあり、県内でも早い段階で一人一台のタブレット端末が実現でき、併せてICT機器の活用に向け、周辺の体制整備も順調に進められました。今後も学びの充実、ひいては学力の向上に向けて継続した取組みを期待します。

教育課程の特例カリキュラムは、小中一貫教育の充実のために義務教育学校創設時より検討されていたものですが、今後の教育の方向性や児童生徒の現状を踏まえ、具体的な内容をスタートさせ、推進のために中心になる先生方の研修、カリキュラムの作成などが進んでいます。

また、コミュニティ・スクールについても、各校が学校運営協議会委員とともに次の一手を模索されています。社会に開かれた教育課程の実現に向けて、教育委員会の役割は大きく、引き続き、学校と地域の協働を進めていくうえでの課題や方向性を明確にして、しっかりと各校を後押しされることを期待します。

学校教育の充実に向けての研修、研究の充実、教育課題や方向性を明確にするための府中市独自の教育センター機能を有する組織が、令和3年度から設置されます。今後、府中市の学校教育の充実、ひいては「教育都市ふちゅう」の実現には、この組織は大きな役割を果たすものと考えます。今後府中市を担う人材の育成、教育内容の充実に向けて、機能化が図られることを祈念します。

2 生涯学習の推進

地域における教育の充実には、公民館が大きな役割を担っています。各地域での学びの活動への支援はもとより、市内全体を見据えた地域相互の連携など、ダイナミックな事業や活動をどのように仕組むかが必要になってきます。公民館相互、そして教育委員会と公民館のネットワークがしっかりとでき、各世代の皆さんが主体的に参加したいと思える中身づくりが充実することを期待します。そのためには公民館活動推進員の主体的で創造的な取組みも不可欠であり、先進地研修をはじめ様々な研修も積極的に進めることも必要だと考えます。

電子図書館は新たなコンテンツが充実してきている中で、活用しやすい環境整備、活用に向けての紹介や活用方法の案内など、どこでもだれでも使えるための工夫がさらに必要であると考えます。公民館、学校も図書館を積極的に活用するなど具体的に連携をしながら、学びの充実も図っていただきたいと思います。

スポーツや文化活動については、市長部局に移行しましたが、生涯学習の重要な中身であることから、引き続き連携し、市民のための充実した取組みが進むことを期待します。

3 その他

常に5年後、10年後を視野に入れながらの教育について推進する必要がありますが、現在、児童生徒数が減少している中で、今後の学校規模については、早急に検討する時期に来ていると考えます。とりわけ小中一貫教育及びコミュニティ・スクールを進めている府中市としては、その視点も踏まえた学校再編がポイントになり、児童生徒数のみでは語ることはできませんが、教育内容の充実を第一義に考えながら、まずは専門家や市民の声をしっかりと集約する必要があると考えます。

学校施設の整備やバス通学の支援についても、学校再編と併せて再検討する必要があります。特に府中明郷学園と上下中の通学バス支援については、過去の経緯はあるものの支援条件の見直しの時期にも来ているのではないかと考えます。

是正指導から20数年が経過する中で、学校現場において府中市で育った人材が活躍される状況になりつつあります。「教育は人なり」と言われるように、学校における教員・職員の役割は非常に重要です。教員の資質能力の向上には継続して取り組むとともに、地域とともにある学校を創造していく上で、府中市在住の教員・職員の確保にも取り組む必要を感じます。そして、これらの教員が府中市の教育に魅力を感じ、教育委員会と思いを共有して気概を持って取り組みを進めていけるよう、必要な支援を祈念します。

新たな教育委員会制度が始まって数年が経過しますが、現状においてはレイマンコントロールの考えを踏まえた教育委員から、府中市教育に対しての的確な意見をいただいています。そういった中で、他市町の状況や先進地の取組を学ぶことにより、府中市の取組に対する客観的な見方が深まり、よりの的確な意見もいただけるものと考えます。新型コロナウイルス感染症の影響もありますが、研修の機会が確保

できたらよいと考えます。

府中市の先進的な取り組みについて一定程度の評価はいただいておりますが、これも学校関係者をはじめ様々に関係する市民のみなさんとの信頼関係の中での取り組みによって築かれつつあるものと考えます。今後とも府中市で学ぶ児童生徒のため、そして市民の皆さんのために、教育委員会がリーダーシップを発揮し、「教育都市ふちゅう」に向けて尽力されることを期待します。

IV まとめ

府中市教育委員会は、平成27年10月から新たな教育委員会制度での運営となった。府中市総合教育会議の開催により、より多くの意見を聴取し、発信する機会を得たことにもなっており、小中一貫教育の推進、より一層の充実にまい進している。

令和2年度の評価については、第5次府中市長期総合計画の事業で、教育委員会の主要な15事業について点検・評価を行い、実施事業をより発展させるべく業務改善の評価が多くみられた。

これは、新型コロナウイルス感染症という未知の感染症の出現により、全国に緊急事態宣言が出され、学校臨時休校やあらゆる行事・イベントの中止という、かつて経験したことのない事態が続いたことによるものと言える。2020東京オリンピックも1年延期となったことは、皆の記憶に残るところである。

新しい生活習慣、新しい常識。GIGAスクールの導入に代表されるように、加速度的に物事は変化していく中で、やはり、人と人とが顔を合わせ、耳を傾け、声を聴くという「これまでの当たり前」の大切さを、だれもが感じている状況が続いている。

学びを通して、児童生徒や市民の皆さんにどのような喜びを届けることができるのか。外部有識者から、繰り返し、この問いを投げかけられていると感じる。先を見据えて課題と向き合い、果敢に乗り越えていこうとする教育委員会であるよう、チームとして取り組み続けたい。